

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 2月 22日

事業所名 放課後の家明和

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		十分なスペースを確保し、運動できるスペース(屋外運動場)も用意している	
	2	職員の配置数は適切である	○		人員配置基準以上の配置を行い、保育士、教員、児童指導員等、児童分野の経験と専門性を備えた職員を配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		容易に視覚認識できるよう並ぶ場所のマーキング等)個々に応じた配慮を行っている	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎日のミーティングの他に、職員会議やケース会議などを行い、療育の質を確保したうえで業務改善に努めている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケート集計結果後すぐに社員へ開示し、満足度が高い項目であっても反省点を抽出し、より良い進化を求めて発案実行している	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		公式ホームページに掲載し公開している	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		第三者に自社の取組が理解しやすいように運営時の写真などをふんだんに使って資料を作成している	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		新型コロナウイルス感染予防のため外部研修にはWEBを使用した研修の機会を確保している。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		普段の様子を観察、家族からの聞き取りによるアセスメントに基づき、個別の特性を理解して個別支援計画を作成している	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		自社で最適化したフォーマットを使い、個々の状況を的確に把握できる体制を整えている	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		事業所内を3人1班で3班に分け指導員全員がレクレーション等の立案と実行を毎日当番で行う。最終承認は児発管が行う。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		月間で数十種類の療育プログラムを開発し、専門的な集団療育プログラムを日々提供している	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		その時の個々の状態に応じ、適切な課題を設定し提供している	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別療育と集団療育を同時進行で進め、総合的な能力の向上、また相乗効果を図っている	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		一日の流れや目的、支援上の注意事項を職員間で確認している	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		その日の改善点等を法人内の他事業所とも共有し、全事業所の改善につなげている	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		職員間で情報を共有し、細かく記録とり、支援の検証・改善につながるよう努めている	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		児発管、児発管補佐が中心となり全指導員からの情報が反映できるようにしている	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		個別療育と集団療育を同時進行で進め、総合的な能力の向上、また相乗効果を図っている	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	専任のコーディネーターを配置し日々の連絡帳や支援状況、記録写真をふまえ、状況報告している。作成資料は相談支援専門員様へ直接お渡しする		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	保護者を通して、情報共有、連絡調整を行っている。必要に応じて、相談支援専門員を通して学校との担当者会議を開催したり、学校への迎え時に相談や情報共有ができるように努めている		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	対象外			
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○	新しい場所・環境への就学の場合は現在までの支援記録を資料にし、伝達している		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○	新しい場所・環境への移行の場合は現在までの支援記録を資料にし、伝達している		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	学術的側面をレポートや書籍からまとめ共有している		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	新型コロナウイルスの感染予防に十分配慮した検討を行っている		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○	明和町が開催する子ども部会等に参加している。		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	密な当日報告のために報告書に近い連絡帳を手渡し、口頭説明を実践している		
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○	事業所の対応内容がイメージできるように具体的支援方法を送迎時に解説している		
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	専任のコーディネーターが見学時、契約時に丁寧な説明を行い同意を得ている		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	トラブルの状況により、異性、受験、不登校などそれぞれのケースで現状のヒヤリングと事業所と家庭での役割分担を実施している		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	子供同士の繋がりを説明し、施設外でも良き関係が築けるように共通の話題や興味を提供している		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	苦情があった場合には苦情対策マニュアルに沿った事業所内で共有し適切に対応している		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	ホームページやSMS、紙媒体を用いて情報を発信している		
	35	個人情報に十分注意している	○	個人情報は鍵付きの書庫で厳重に保管している。職員は個人情報の取り扱いに関する研修を受けている		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	専任のコーディネーターを配置し、密な意思疎通や迅速な情報伝達に努めている		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	新型コロナウイルスの感染予防に十分配慮した検討を行っている		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	職員へのマニュアルの周知はもちろん、保護者へ簡易マニュアルを配布し、緊急時に対応できるよう身近な場所への掲示をお願いしている	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	いつでも避難が必要となっても対応できるよう、非常マニュアルや緊急連絡先は防水化し、送迎時においても持参し行動している	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	外部、内部研修の機会を確保し、虐待防止の対応をしている	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	身体拘束を行わないのが基本だが、該当する場合は保護者や関係者、事業所で相談・検討を行い決定する	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	確認した内容を全職員で共有し、適切な対応がとれる体制を整えている	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	各種マニュアルへ情報を落とし込み、常にレピジョンアップしている。また、改善点を法人内の他事業所とも共有し、改善につなげている	